

平成 22 年度 2 級建築士設計製図試験の講評

「兄弟の二世帯と母が暮らす専用住宅（木造 2 階建）」

コスモ建築塾の製図講習会の予想と試験内容（製図講習会は、課題に対応するエスキスが勝負）

| 試験課題の主な内容と問題点 | 講習会で指摘した事項と試験の内容 |
|---|---|
| スパン割は、北側から 5 コマ、3 コマ 10 コマの基本形（1 コマ：455 mm） | ズバリの中、コスモの 16 課題中すべてはこの基本形とその若干の変化で解かれている。この解法以外はやっていない。パターンを多くした講座もあるが、短時間でマスターするのは難しい。特に今年の課題の居室のスパンは 10 コマ（4550 mm）でないと単純明快には解けない。平面が不整形になると、図面化する時間も長くなる。 |
| 共用玄関 | 共用玄関 13 m ² 、まったく予想外の形だった。昔の民家にはよくあったプランだが、これにより、家族の独立性と近隣を含むコミュニティの形成を構成した案である。 |
| スロープ | 高齢の母が住む住宅なので、すべてのプランで演習した。重要なことはどの高さまでスロープで登るかを選択する問題である。長いスロープはお化けとなるので注意が必要。 |
| 北側道路と駐車場 | 南北 18m の敷地であれば、駐車場は 2 台納まる。従って、5 コマラインは削る必要はない。南側に 9 コマ（4095 mm）の空地が確保でき問題ない。コスモの模擬 2 はこのパターンとなっている。 |
| ホームエレベーター | ホームエレベーターの課題は、情報収集の中で 5 課題あったがどれもプランがホーム EV との結びつきがまったく見られなかったので無視した。2 階に母の寝室と居間、LDK をもってくるとは、まったくの予想外であった。 |

今回は、試験の課題文にすべての手掛かりがあった。赤の他人である兄弟が一つの屋内に暮らせることはない。しかし、課題文は、兄弟 2 家族と母が住む専用住宅であり、その独立性とコミュニティの 2 つを成立させなければならない。この相反する要素をコラボレーションさせる空間を設計することが求められた。

コスモではファミリースペースへ弟の玄関よりの直接の動線を考え、コミュニティとプライバシーを両立させたが、試験問題の構成は頭に浮かばなかった。なぜなら、2 階に母の寝室とリビング、家族の LDK を設けることに非常に違和感を感じるからである。但し、都心部では、日照の関係で母の部屋を 2 階に設けることはよくある。演習問題として周囲に家が密集して日照が 1 階に充分当たらない問題を作成する必要はあったと思う。2 階への EV も必要となるし、受講生には充分役に立ったと思う。いずれにしても今回の問題は、私が経験した 18 年の中で最もエスキスに特長があった。不合理と思える部分もあるが、この試験課題文であればこの形もありかなと思う。2 級建築士製図もここまで来たかという感じである。受講生としては、単に図面が書けるだけでなく、問題文のするどい解釈と工夫が求められ、ますますハードルは高くなる感じである。